

全国環境研協議会加盟機関が実施している生物学的調査研究（平成30年度）

全国環境研協議会環境生物部会では、生物学的調査研究に関する情報交換を進め、共同研究への発展等に資することを目的として、加盟機関に生物学的調査研究の実施状況についてアンケート調査を実施しています。下表は、平成30年度に実施している調査研究課題名及び概要をまとめたものです。

実施機関名	岩手県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>重要な絶滅危惧植物を存続させるための技術開発に関する研究</p> <p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」や「岩手県希少野生動植物の保護に関する条例」の指定種から、繁殖技術が確立されていない種の保護や苗生産法の開発に取り組む。</p> <p>[URL]http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kenkyuu/006934.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究</p> <p>イヌワシの分布、繁殖状況、生息環境、個体群構造等に関わるデータを収集・解析し、生息数維持に向けた科学的知見を整備する。</p> <p>[URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/inuwashi/top.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明</p> <p>モデル地域でヘア・トラップ調査を実施して個体群動態と将来予測を行い、捕獲上限数の算定方法を開発する。またGPSテレメトリーによる行動圏の把握をもとに人里への出没メカニズムを解明する。</p> <p>[URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>五葉山地域に生息するニホンジカの個体数推定</p> <p>ニホンジカの生息数推定法を開発するため、各事業のデータを用いて自然増加率を推定する岩手県独自のシミュレーションモデルを構築する</p> <p>[URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ウイルス媒介性節足動物（ヒトスジシマカ）の生息に関する研究</p> <p>ウイルス性疾患を媒介する感染症対策上重要な節足動物であり、地球温暖化の身近な指標生物であるヒトスジシマカについて、生息北限地域における生息状況の調査及び生息条件の解析を行うとともに、自治体が行うヒトスジシマカの調査に協力する。</p> <p>[URL]http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/055574.html</p>

実施機関名	宮城県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>共同研究Ⅱ型「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディー」</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、WET手法に関する情報収集を行う。</p> <p>本県は、環境水サンプルの提供及び水質基本項目の測定を行い、また、サンプルの生物試験の結果如何により原因追究等について国立環境研究所と共同で行う。</p>
実施機関名	秋田県健康環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>廃水処理施設における1,4-ジオキサン分解菌の挙動と活性促進因子の探索</p> <p>難分解性の化学物質1,4-ジオキサンが特異的に処理されている水処理施設において、生物処理槽に複数の1,4-ジオキサン分解菌を確認している。本研究では、1,4-ジオキサン分解菌の存在割合と処理効率を観察し、処理に有効な菌の種類や濃度について評価を行う。また、菌の単離を試み、様々な条件での分解能試験を行うことで活性促進因子の探索を行う。これらの検討により、恒久的に安定した廃水処理の実現を目指す。</p> <p>[URL]http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/28300</p>
実施機関名	山形県環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>自然生態系保全モニタリング調査</p> <p>森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、山岳地域や里山において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ブナ・ナラ豊凶調査</p> <p>森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、山岳地域や里山において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。</p> <p>[URL]http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ツキノワグマ生息状況調査</p> <p>現在、ツキノワグマによる農作物被害や人身事故の防止に向け、抜本的な対策が求められている。被害対策を行ううえで生息数の把握が極めて重要であることからカメラトラップを用いた生息状況調査を行っている。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>酸性雨モニタリング（陸水）調査（環境省委託事業）</p> <p>環境省の委託により酸性雨の中長期的影響を把握するため今神御池（山形県戸沢村）の水質等の調査を行っており、プランクトン調査も継続的に行っている。</p>

実施機関名	福島県環境創造センター
調査研究課題名 及び概要	<p>猪苗代湖の水環境に関する研究</p> <p>猪苗代湖の中性化に伴い、特有の自然浄化機能が低下し、COD上昇及び大腸菌群数の環境基準超過など水質悪化の傾向があることから、湖水中性化メカニズムの解明及び汚濁負荷原因の解明を進めることにより水質汚濁の原因を明らかにし、水質改善に向けた効果的な方法等について研究を行う。</p> <p>分布域が拡大しているヒシを含む水生植物等の分布状況や植物及び動物プランクトンの分布や種構成の変化と湖内の水質等について調査研究を行う。</p> <p>[URL]https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>野生生物における放射性核種の挙動及び行動予測</p> <p>野生動物の生体内における放射性セシウムほか放射性核種の挙動、食物連鎖による野生生物間での移行等の調査を行う。</p> <p>また、食物連鎖に係る野生動物の食性を含む行動解析、年及び季節毎の野生生物の行動予測・筋肉中放射性核種濃度の変動に関する研究等を併せて実施する。</p> <p>[URL]https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf</p>
実施機関名	新潟市衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>新潟市河川における水生底生生物実態調査</p> <p>「生物等による水環境評価マニュアル」（環境省）のスコア法に基づき算出したASPT値について、河川の水質の重要な指標であるBOD等との関連を経年的に見るため、長期の水質状況が把握できる公共用水域の常時監視地点を考慮した地点等で調査を実施している。</p> <p>[URL]http://www.city.niigata.lg.jp/iryu/shoku/syokuei/shokueishisetsu/eisei_ken/kohoshi/index.html</p>
実施機関名	栃木県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>湯ノ湖沈水植物の植生調査</p> <p>奥日光水域の水環境保全対策の一環として湯ノ湖に繁茂するコカナダモの刈取りを実施するに当たり、コカナダモのほか、ヒメフラスコモなど絶滅危惧種を含む沈水植物の植生及び生育状況を調査するもの。</p> <p>[URL]http://www.thec.pref.tochigi.lg.jp/thec/result.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>水生生物調査</p> <p>県内主要河川について、水生生物の生育状況を調査することにより、生物学的観点から水質を継続的に監視する。</p> <p>[URL]http://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/jyoujikansekkka.html</p>

実施機関名	群馬県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	尾瀬国立公園尾瀬沼コカナダモ試験区の観察 1982年頃に目立ち始めた帰化植物のコカナダモについて、生態系保全のため試験区内において駆除し、その後の生育状況を経過観察し、その結果を年報にてとりまとめている。 [URL] http://www.pref.gunma.jp/07/p07110001.html (トップページ下段 研究所年報内「資料」の項目に記載)
調査研究課題名 及び概要	環境DNAを利用した生物多様性に関する調査 水生生物調査は、採取等による確認にて実施されているが、採取が難しい場合確認できないこと、採取技術が継承されなくなってきたこと、採取するとその個体を傷つける恐れがあることなどの問題点がある。それらを改善するため、水中に含まれるDNAから存在する生物種を特定する新たな手法を活用する。 この新たな手法では、魚類の特定が可能となっており、まず、生物多様性のモニタリング方法の選択肢となるか検討を行う。調査手法として実用性を確認後、県内河川においてサンプリングを行い、その結果を河川水質データ等と併せてマッピングする。また、その他の水生生物等については、環境DNAのサンプリングに併せて、採取による調査を行い、水環境に関わる生物種を明らかにする。それらの結果についても、魚類等と同様にマッピングを行う。
実施機関名	埼玉県環境科学国際センター
調査研究課題名 及び概要	県民参加を主体とした光化学オキシダント（オゾン）によるアサガオ被害調査 毎年7月に県民参加により、埼玉県内で生じる光化学オキシダントによるアサガオ被害の状況を調べる。具体的には県民の協力により、県内約60地点程度でアサガオの葉に発現するオゾン被害を調査するとともに、その被害状況を地図化し、ホームページ等で公表する。 [URL] https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html
調査研究課題名 及び概要	水稻の収量に対するオゾンリスク評価 我が国の主要水稻品種（約18品種）の収量に対する光化学オキシダントの主成分であるオゾンの影響の評価
調査研究課題名 及び概要	埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況調査 埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況を、県民参加による調査で把握し、結果をホームページ等で公表する。 [URL] https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html
実施機関名	千葉県環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ 国立環境研究所のII型研究に参加。 ニセネコゼミジンコを用いて、水生生物環境基準（亜鉛）超過地点について生態毒性評価試験を行っている。

実施機関名	公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	赤潮発生抑制効果を期待できる植栽樹種の研究 東京湾における代表的な赤潮プランクトンであるSkeletonema spp. について、OECDテストガイドライン(TG201)を参考に、植物によるプランクトンの生長阻害効果を評価し、植物の他感作用（アレロパシー）により赤潮発生抑制効果を期待できる植栽樹種について調査研究を行っている [URL] https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/3/2018/10/4-3.pdf
調査研究課題名 及び概要	水生植物の多様性の評価と保全に関する基礎的研究 都内水域に生育する水生植物（水草）について、生物多様性保全の観点から、水生植物の生育状況および生育場の環境特性を把握し、多様性の評価とその保全に資する基礎的知見の集積を目指す。 併せて、取得した生物多様性情報および実標本について、その管理・活用方法等を検討する。 [URL] https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/3/2018/10/4-5.pdf
調査研究課題名 及び概要	全天球画像を活用した緑地の立体構造把握に関する研究 森林内で撮影した全天球画像を活用して森林の階層構造や植被率等の立体的な構造を把握する研究を行っている。都内の代表的な森林群落について毎木調査を行い、その結果と画像による専門家の判定の誤差を検証、活用可能性を検討すると同時に撮影方法の確立、さらには全天球画像から画像解析による自動判定も目指す。
実施機関名	神奈川県環境科学センター
調査研究課題名 及び概要	河川のモニタリング調査 本県で平成19年度から実施している水源林の再生とダム湖の負荷軽減を目的とした水源環境保全事業（個人県民税の超過課税により実施）の実施効果を検証するため、県の主要な水がめとなっている相模川、酒匂川の各40地点について水質、生物（魚類、鳥類、植物、両生類、底生動物、付着藻類）、河床底質の状況をモニタリングしている。 調査は5年毎に相模川は平成20、25、30年度、酒匂川は平成21、26、31（予定）年度に実施している。 [URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/suigen/top.html
調査研究課題名 及び概要	河川モニタリング調査の補完・代替のための環境DNA調査の導入検討 5年毎に実施している河川モニタリングの生物調査について、より省力で効率的な調査手法を開発し、従来の調査を補完・代替することを目的として、サンショウウオ類（ヒダサンショウウオ及びハコネサンショウウオ）の環境DNA調査の同時実施を試みた。 平成30年度はサンショウウオ類捕獲調査地点24地点のうち、18地点について環境DNA調査を実施し、その結果を比較した。

実施機関名	山梨県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	イネ科及びブタクサ花粉飛散状況等に関する研究 現在当所ではスギ、ヒノキの花粉飛散状況の観測を行っているが、新たにイネ科、ブタクサについても同様に観測すると共に、気象条件や周辺環境と合わせた解析を行う。 [URL] http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/63266933614.html
調査研究課題名 及び概要	外来種珪藻Cymbella janischiiの分布実態調査 Cymbella janischiiは近年国内でも散見される、外来種の大型珪藻である。本種は県内魚業権魚種の一つであるアユの定着に悪影響を及ぼす可能性が示唆されていることから水産技術センターの要望により、同種の県内河川での存在状況を明らかにし、健全な水産業の維持に必要な資料を提供する。
調査研究課題名 及び概要	山梨県内河川の付着珪藻群集組成からみた水質判定 付着珪藻は生息する水環境により構成種が異なることが知られている。それを利用して長期間の水環境を推測する手法も提案されている。本研究では県内の湖沼、河川で採取した付着珪藻の観察を行い珪藻アトラスを作成するとともに、各水域の水環境を判定することを目的とする。
調査研究課題名 及び概要	環境水中における病原微生物サーベイランス 下水道中に流入する糞便系の病原微生物を定期的に検査し、不顕性感染等で流行の把握の難しい感染症を含めた、県内の感染症の動向を調査する。
実施機関名	長野県環境保全研究所
調査研究課題名 及び概要	野尻湖の水草帯の復元と保全に関する研究 野尻湖では、かつて繁茂しすぎた水草の制御を目的として草食性の強いソウギョを放流したために喪失してしまった水草帯の復元を目指して、約20年間にわたる検討と対策がなされてきた。本研究は、沿岸域のソウギョ侵入遮断実験区とその周辺など複数の定点で水草を観察し、復元状況及び長期変化を把握することで、水草による水質浄化や生物多様性保全の役割を取り戻し、野尻湖が望ましい湖沼環境となることを目指している。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/dojo/index.html
調査研究課題名 及び概要	陸水域における魚類の保全と管理に関する研究 本研究では、千曲川中流域の生物生産を良好に維持しながら河川環境を管理することを目的として、魚類に関する調査を実施しているが、初年度調査の結果、従来湖沼に多いとされる外来魚コクチバスが千曲川中流域に予想以上に多く生息していることがわかった。コクチバスはアユやウグイ等の有用在来魚を捕食すると考えられることから、今後は、これらコクチバスの分布、摂餌・産卵等の生態特性、さらには在来種との種間関係に関する情報を収集していく。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html

(続き) 長野県環境保全研究所

調査研究課題名 及び概要	長野県におけるカラマツ林の炭素収支の気候変動応答と森林管理による緩和策の評価 全国3位の森林面積を有する長野県では人工林の半分以上をカラマツが占めており、冷涼な気候を好むカラマツは気候変動に対する脆弱性が指摘されている。そこで、本研究は長野県のカラマツ人工林を対象に、地域気候モデルによる高解像度の近未来気候予測値と陸域生態系モデルを利用して、森林生態系の炭素収支の将来予測を行い、間伐や樹種転換等の森林管理が将来の炭素収支に与える効果を評価することを目的とする。
調査研究課題名 及び概要	信州の生物多様性の保全および自然資源の価値共有手法の開発 自然は資源と認知されることではじめて資源となる。そのためには、その認知を可能にする知識・体験のフレーム（枠組み）が必要である。山岳や高原で特徴づけられる信州の自然の特色は広く知られている。しかしその価値・希少性を地域の価値として科学的基盤（生物多様性・地形地質・気候条件等）にもとづいて社会的に広く共有し活用することは十分行われていない。そこで本研究は、これらの科学的な知見にもとづく地域の価値を統合的に示し、危機に直面する自然環境の保全対策に活かすとともに、特色ある自然資源の持続可能な活用につなげることを目的として行う。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/tayose/index.html
調査研究課題名 及び概要	侵略的外来生物を早期発見するためのモニタリング手法及び防除技術の開発 本研究では、(1)HP等により県内の外来生物リスト、その生態や影響・課題等を積極的に情報発信するとともに、多くの方に情報提供してもらおう仕組みをつくること、(2) 定着状況、被害状況、対策の実効性等から対策方針の検討、(3) 特に問題が大きい外来生物について、その分布や被害状況等のモニタリングを継続し、新たな外来生物の侵入を監視することを目的とする。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html
調査研究課題名 及び概要	高山生態系における長期モニタリングとその手法に関する調査研究 本プロジェクトでは、前プロジェクトで構築したモニタリングサイト及び検討・試行した調査手法によるモニタリングを継続するとともに、新規モニタリングサイト（御嶽山）の構築をすすめる。また、詳細な生物調査や気象観測の実施は、様々な制約から特定の山岳に限定されるため、より広い山域で、高山帯の自然環境を把握するためには、登山者や山小屋関係者などと連携し、多くの人の目で観察することが必要となる。そのため、新たな登山者参加型の環境情報（ライチョウ・ニホンジカ等）収集手法の開発を、県自然保護課と連携して行う。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/kozan/index.html

(続き) 長野県環境保全研究所

調査研究課題名 及び概要	野生鳥獣の保護管理に向けた生態解明および被害対策の普及啓発 シカ、サル、クマ、イノシシ、魚食性鳥類などの野生鳥獣は、生息数や生息域が変化しており、農林水産物被害、人身への被害、生態系への影響が懸念されている。本プロジェクトは、野生鳥獣被害対策本部の被害対策支援チームの一員として対策を支援し、問題となっている野生鳥獣と持続可能な関係性を構築することを目的とする。具体的には以下の項目を実施することで、対象種の保護管理に必要な生態の解明や普及を行う。最終目標は、長野県における野生鳥獣とヒトの暮らしと健全な生態系の両立である。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/yase/index.html
実施機関名	静岡県環境衛生科学研究所
調査研究課題名 及び概要	ワサビ田に棲む生物の食性 ワサビ田の生態系解明の一環として、炭素窒素の安定同位体比分析を活用した水生昆虫等のワサビ田に棲む生物の餌資源の調査を実施している。
調査研究課題名 及び概要	外来不快害虫ヤンバルトサカヤスデの分布・生態特性の解明 1980年代に台湾から沖縄に侵入し、近年本州でも確認されている外来種ヤンバルトサカヤスデは、秋の繁殖期に異常発生して集団で壁によじ登ったり家屋に侵入するなどの不快性被害を引き起こし、静岡県内でも問題となっている。これまで、静岡県内における本種の生態特性や環境適応度を把握するとともに、分子生物学的手法を用いて分布拡大パターンを解明してきた。現在、県内の市町、保健所へのアンケート調査を秋の異常発生が起こる時期に実施し、分布拡大状況の把握に努めている。
実施機関名	さいたま市健康科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	アズマモグラの繁殖生理に関する研究 モグラは地中にトンネルを作る習性により田畑や堤防などに影響を及ぼしうる身近な動物である。しかしこれまでのところ、その繁殖に関してはあまり明らかにされていない部分が多い。そこでモグラの害を防ぐために有益な情報を提供することを目的とし、このモグラの繁殖生理について調査する。
調査研究課題名 及び概要	生物応答手法を用いたさいたま市内河川水水質調査 環境省が導入を検討している、生物応答手法を用いた排水検査のうちニセネコゼミジンコを用いた排水試験法の検査を行えるようにする。 また、その手法を用いてさいたま市内の河川水の水質調査を行う。

実施機関名	横浜市環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>水域生物多様性に関する調査業務（河川域）委託</p> <p>横浜市内水域生物の生息状況を把握し、生物指標による水質評価を行うことを目的として、2年おきに河川域調査と海域調査を実施している。平成30年度は冬季に魚類、底生動物、付着藻類の調査を行い、平成31年度夏季に行う魚類、底生動物、水草、付着藻類の調査と併せて第15回目の河川域調査結果として取りまとめる予定である。</p> <p>[URL]http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/kasen.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>陸域生物多様性に関する調査業務委託</p> <p>横浜市内陸域生物の生息状況を把握し、環境変化や地域特性による生物相の違いについて基礎資料を得ることを目的として、4年間で12地点を一巡できるよう調査している。平成30年度はこども自然公園、陣ヶ下溪谷公園、野毛山公園において、植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類の調査を行う。</p> <p>[URL]http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>横浜市内の池における魚類、甲殻類（十脚目）相調査</p> <p>横浜市内の池において魚類、甲殻類（十脚目）相調査を実施し、現在の生物生息状況を把握するとともに、過去に実施した調査結果との比較を行う。平成30年度は14地点で調査を実施した。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>市民協働調査 こども「いきいき」生き物調査</p> <p>市民に地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、生物多様性保全に資する基礎データを取得することを目的として、平成25年度より横浜市全域で小学生による生き物調査を実施している。平成30年度は市立小学校全342校に調査票を配布し、ツバメの巣、つくし、カワセミなど9種類の生き物を過去1年間に学区内で見つけたかについて回答してもらい、調査結果としてまとめた。</p> <p>[URL]http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>市内河川におけるアユの遡上および分布</p> <p>アユは通し回遊魚であり、横浜市内河川のアユ集団の分布を調査することで、海から川までの流域を含めた河川環境の把握に繋がるものと考えられる。</p> <p>この調査は横浜市内の河川6水系33地点において、3～11月に月2回の目視踏査により実施した。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>山下公園前海域における生物相モニタリング調査</p> <p>横浜市の山下公園前海域に設置されている「つき磯」等について水質、底質、生物相等調査を行い、過去の結果も踏まえて生物相の現状を評価する。平成30年度は夏季と冬季の年2回調査を行う。</p> <p>[URL]http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/sea/umidukuri/</p>

実施機関名	川崎市環境総合研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>生物学的試験による化学物質の生態影響に係る環境リスク評価手法に関する研究</p> <p>生物応答を利用した環境リスク評価の手法を確立するため、試験用生物の安定した飼育・繁殖を検討するとともに、それらの試験生物を用いて化学物質の影響について基礎的な暴露実験を行い知見の集積をしている。</p> <p>[URL]http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html (過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載)</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>河川等の水質及び水生生物の生息・生育状況モニタリング調査</p> <p>川崎市水環境保全計画に基づき、市内河川、海域、親水施設等の水質や水生生物の生息状況を継続的に調査している。</p> <p>[URL]http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html (過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載)</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>水環境における生物多様性に関する調査研究</p> <p>市内に生息する生物の種類を、顕微鏡観察およびDNA配列の解析により調査し、市内調査地点における生物多様性の状況を把握している。</p> <p>[URL]http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html (過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載)</p>
実施機関名	愛知県環境調査センター
調査研究課題名 及び概要	<p>海上の森自然環境保全地域における希少種の保全についての研究</p> <p>海上の森自然環境保全地域では、シデコブシ等の希少種が植生の遷移により、ほかの樹木等に被陰されて生育状況が悪化している。そこで、本県とともに多様な主体の協力により、間伐など希少種の保全活動が行われている。この保全活動による動植物の状況を調査、解析をするとともに、水質等に関する調査も総合的に行い、希少種の保全に役立てる。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>外来種調査</p> <p>県内に生息する外来種について、最新の生息生育状況の収集・解析を行う。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>絶滅危惧種フォローアップ調査</p> <p>レッドリストあいち2015に掲載されている絶滅危惧種及び今後絶滅危惧種となるおそれのある種について、最新の生息生育情報を収集・解析する。</p>

実施機関名	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>琵琶湖・瀬田川プランクトン等のモニタリングと遷移の評価</p> <p>1. 琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン (北湖4地点(6検体), 南湖1地点で年24回) 植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン(1地点で年52回、毎週HPで結果公表) <p>⇒プランクトンのモニタリング結果を理化学的な水質調査結果と併せて解析・評価し、環境審議会等の場で報告する。</p> <p>2. 瀬田川におけるプランクトン遷移の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの調査結果を整理し、動物・植物プランクトンの遷移を評価する。 <p>[URL]http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/02shiraberu/02-04plankton/02-04plankton.html (プランクトン観測室) *平成31年4月1日より新環境情報システムが稼働するのに伴い上記URLは変更されます。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>化学物質の影響把握と総量リスク評価手法の検討</p> <p>サブテーマ2：総量リスク評価のための生態影響試験等の手法確立</p> <p>環境水中に含まれる個別の化学物質の評価では捉えられない化学物質総量としてのリスク評価を行うため、生物を用いた生態影響試験法の確立を目指した検討を行う。</p> <p>[URL]http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/01shiru/01-01kenkyuu/01-01kenkyuu.html *平成31年4月1日より新環境情報システムが稼働するのに伴い上記URLは変更されます。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>琵琶湖沿岸域における湖底環境・生物再生に向けた研究（政策課題研究1）</p> <p>沿岸域における生態系改善対策の一つとして、浅い砂地の修復・再生に向けて、事業の設計に必要な知見を得るため、二枚貝等を評価指標とした生息・餌環境を形成する要因を評価するとともに、養浜等の事業における底質や生物への影響を評価することにより、場の特性に合わせた、二枚貝等がにぎわう沿岸環境を修復・保全する設計手法を提示します。</p> <p>[URL]http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/01shiru/01-01kenkyuu/01-01kenkyuu.html *平成31年4月1日より新環境情報システムが稼働するのに伴い上記URLは変更されます。</p>

実施機関名	京都府保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>ネオニコチノイド系農薬の脊椎動物に対する安全性について－水田生態系の保全を目指して－</p> <p>ネオニコチノイド系農薬のうちイミダクロプリド、アセタミプリド、クロチアニジン、ジノテフランの4種とフェニルピラゾール系のフィプロニルを対象とする。OECDのテストガイドライン（カエル変態試験）に準じた方法により、ネッタイツメガエルの幼生を用いた短期暴露と長期暴露による影響を、個体レベルで観察する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>地域の生物相調査から行う環境影響評価研究</p> <p>気象状況や人為的影響を考慮しながら、地域の環境との関連を調査し、環境評価を試みる。下記の実施期間においては対象生物として蚊を選定する。デング熱等発生時における蚊類調査は8分間人囀法が基本となるが、感染リスクを低下させるため昨年同等の捕獲特性を確認したBG-センチネルTM2トラップの利用について検討する。また、本法により捕獲された蚊の季節消長の把握を試みる。</p> <p>[URL]</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>特定外来生物の防除法について</p> <p>京都府ではツマアカスズメバチの発見事例はないが、府内侵入した場合に備え、本種を選択的に捕集できるようなトラップの開発を、同属の在来種をモデルとして検討する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>京都府の淡水ガメ生息実態調査</p> <p>環境省、農水省により「緊急対策外来種」に指定されたミシシippアカミミガメについて、①京都府内における分布状況を把握する、②生態学的に重要な水域における生息状況と在来種や生態系への影響を明らかにする、③防除後安楽死させた死骸の有効活用方法（堆肥化とアカミミガメ堆肥の成分分析による有用性）を確立するなど、本府と環境省のミシシippアカミミガメ対策に有用な情報を提供するため、野外調査及び室内実験を実施する。</p> <p>[URL]http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori111.pdf</p>
実施機関名	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>シカ・イノシシのモニタリング調査</p> <p>農林業被害の軽減・人と野生鳥獣の共存を図るため、大阪府では鳥獣保護管理法に基づくシカ・イノシシの第二種鳥獣管理計画を策定している。この管理計画の策定や進捗状況の点検のためには、地域におけるシカ・イノシシの生息状況や被害状況などの定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府シカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL]http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	外来生物対策調査業務 本来日本には生息しない外来種であるアライグマは、近年生息域を広げて農業被害が拡大しており、大阪府では外来生物法に基づく防除実施計画を策定して対策を実施している。計画の策定や進捗状況の点検のためには、アライグマの生息状況や被害状況など定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府アライグマ防除実施計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。 [URL] http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf
調査研究課題名 及び概要	日本のシカ-植生モニタリング調査 (2009, 2018) からみた地域の生物多様性保全研究 植生学会が2009-2010年に全国の植生を対象に実施したシカの影響調査と同様の規模で2017-2018年に全国調査を実施することで、シカによる植生および地域生態系への影響の推移を全国規模で把握し、その経年変化を比較検討する。同時に、大阪で生物多様性ホットスポットなど貴重な自然の保全活動を行ってきた市民・環境保全グループを対象にシカ対策の成果や課題を集約・解析する。以上により、市民・保全団体が活用できるシカ問題解決のための統合的管理を提案する。 [URL] http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/_files/00056403/H25-nihonjika.pdf
調査研究課題名 及び概要	イタセンパラ保護定着調査 国の天然記念物の淡水魚イタセンパラは、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成17年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所では、国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、本種を当所の保存池で飼育継代するとともに、淀川ワンド群の生物多様性復元の一助とするため、イタセンパラ放流ワンドでの本種を含めた在来魚の生息・繁殖状況を明らかにする。また、外来水生生物の実態を把握し、駆除技術を開発するとともに、本種を含めた在来魚種に感染する恐れのある魚病検査を実施する。 [URL] http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/kankyo/gi_jutsu/seika/hogo/itasen/saidounyu.html http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/_files/00057783/h26_07itasenpara.pdf
調査研究課題名 及び概要	希少魚の保護増殖試験 都市化に伴う生息環境の悪化等により、府内では魚など多くの水生生物に生息数の著しい減少がみられるようになった。そこで、大阪府における保護上重要な野生生物 (レッドデータブック) で絶滅危惧種に指定され、現在絶滅が危惧されているイタセンパラやニッポンバラタナゴなどについて、種の系統保存を図るとともに、その生息状況を把握する。 [URL] http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/kankyo/gi_jutsu/seika/hogo/index.html

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	淡水生物増殖試験 大阪府における保護上重要な野生生物（レッドデータブック）に記載されている希少水生生物を保護するための調査試験を行う。平成15年度から平成26年度にかけては水生植物ミズアオイ、平成27年度からは淡水二枚貝のイシガイ類の保全に係る研究に取り組んでいる。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/mizukusa.html
調査研究課題名 及び概要	安威川ダム魚類捕捉調査業務 平成32年の竣工に向けてダム建設工事が進んでいる安威川において、アジメドジョウをはじめとした魚類、水生動物、付着藻類、植生を調査し、ダム建設を進める上で保全すべき環境要素や留意点を明らかにする。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/ai.html
調査研究課題名 及び概要	漁業権河川調査 大阪府内8河川に設定されている漁業権免許の更新時には、漁業法第11条に基づいた漁業計画の策定が必要となる。漁業計画策定に際しては、漁場の有効性等を検討する必要があることから、河川漁業権漁場の総合的な実態調査を実施する。調査地点の無機的环境、付着藻類、底生動物、魚類の調査を実施する。
調査研究課題名 及び概要	生物応答を利用した排水管理手法 生物応答を利用した排水管理手法であるWETについて、その方法や国内外の実施状況をまとめ、有効性と導入に向けた問題点を抽出する。
実施機関名	公益財団法人ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	環境変動が沿岸域の生物生息環境に与える影響調査 大阪湾奥の人工干潟において、環境変動が水温、塩分、溶存酸素量等の生物生息環境に与える変化を継続的に調査し生物種、生物量への影響を調査する。これらの結果から、今後の生態系の変動に関する知見を集積する。
実施機関名	奈良県景観・環境総合センター
調査研究課題名 及び概要	WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ（Ⅱ型共同研究への参加） ・Ⅱ型共同研究に参加し、各地環研が採水したサンプル（河川水）を用いて生物影響試験を行い、結果の共有及び試験精度の向上を図る。 また、研究の過程で得られた知見・技術などを共有することで、試験法の改善案などを検討していく。 ・WET手法（ミジンコ繁殖試験法）により、県内河川及び県内事業所排水を用いて生物影響試験を行い、ニセネコゼミジンコへの影響を評価する。

実施機関名	和歌山県環境衛生研究センター
調査研究課題名 及び概要	第2次底生動物相を用いた河川の水質評価（日高川・古座川・富田川編） 県内の3河川について、底生動物相を調査し、水質評価を行うと共に、20年前に実施した第1次調査との比較により、底生動物相及び河川水質の変遷や長期的影響を調査する。 また、得られた情報は環境学習にも活用する。
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」 共同研究Ⅱ型「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」に参加し、WET手法に関する情報収集を行うと共に、ニセネコゼミジンコを用いた排水試験法の検査技術習得を目指す。
実施機関名	名古屋市環境科学調査センター
調査研究課題名 及び概要	市内希少種の保全とこれに関わる外来種の影響についての研究 名古屋市内に生息する希少種を適切に保全するための基礎的情報として、希少種の生息に必要な環境条件に関する情報および外来種による影響について実態を調査する。 [URL] http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html
調査研究課題名 及び概要	生物応答を用いた排水（環境水）試験方法 この試験法は、環境中に排出される事業所排水を、魚類・甲殻類・藻類の3種の水生生物を用いて試験を行い、排水が水生生物に影響を及ぼさないかを評価する試験である。従来の排水規制を補完する役割として注目されており、当センターにおいて、3種の生物の飼育試験を行っている。 [URL] http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html
実施機関名	大阪市立環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	公立小学校における生物多様性の評価とその普及に関する調査研究 大阪市内の公立小学校において、児童とともに校内に生息する動植物を探索し、生物群集の季節変化を追跡することにより、生物多様性に関する理解を深める機会を与える。得られたデータに基づき、各生物種の分布の地域特性や周辺環境との関連性について、地理情報システム（GIS）を用いて解析を行なう。
調査研究課題名 及び概要	北港処分地における衛生動物のモニタリング調査 大阪市北港処分地南地区において、ネズミ類、ハエ類、ユスリカ類の生息密度をモニタリングし、その防除方法を提案している。
調査研究課題名 及び概要	都市域に生息するトノサマガエルの集団維持機構の解明 大阪府内に生息する準絶滅危惧種トノサマガエルがどのような機構により集団を維持しているのかを明らかにするために、大阪市を中心とする都市域及びその周辺において、トノサマガエルの生息状況を調査し、分子学的分析により各集団間の遺伝的交流の状況を把握する。

実施機関名	鳥取県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	水環境における希少動植物の保全に向けた研究 鳥取県の特定希少野生動植物に指定されているカラスガイと、東郷池で復活が望まれているセキショウモ（水生植物）の保全・再生手法を確立し、得られた基礎技術・知見を基に、湖沼の環境保全と自然再生を目指す。 [URL] http://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm
調査研究課題名 及び概要	湖山池の汚濁機構解明 湖山池の水質汚濁の要因を分析し、汚濁機構原因の究明を目指すとともに、本湖で問題となっている有害プランクトンの増殖特性の把握を目指す。 [URL] http://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm
実施機関名	島根県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	アオコ発生・継続に関与する環境因子の解明に関する調査 アオコの発生から発生後まで、宍道湖沿岸部を含めた化学的な水質検査を行うとともに、植物プランクトンの優占種や出現種の変化について調査する。
調査研究課題名 及び概要	宍道湖に発生する植物プランクトンの脂肪酸組成に関する基礎的研究 ヤマトシジミは植物プランクトンを捕食するが、この植物プランクトンの脂肪酸についても多くの研究が行われており、珪藻、藍藻では含まれる脂肪酸の組成が大きく異なることが知られている。宍道湖にはさまざまな植物プランクトンが発生することから、本研究では多くの種類の植物プランクトン（藍藻類、珪藻類、緑藻類、渦鞭毛藻類）について脂肪酸測定を行い、ヤマトシジミに好適な餌の検討を行う。
実施機関名	岡山県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	児島湖のユスリカ幼虫調査 児島湖の周辺地域では、ユスリカの大量発生が問題となっている。特に、平成18年以降は大量に発生したユスリカが外壁・洗濯物、商店の商品等に付着し、不快害虫として問題となったことから、対策として集落地区に近い場所に誘蛾灯が設置された。また、近年苦情等被害は減少してきているが、住宅地に近接する湖南部はユスリカ幼虫個体数が多く確認されていることから、年4回、湖南部を含む湖内3地点で継続調査を行い、対策検討の一助としている。 [URL]（環境保健センター年報） http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/466230_3271403_misc.pdf http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/462947_3229105_misc.pdf
実施機関名	山口県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	榎野川河口干潟(南潟)における順応的取組推進に向けた調査研究 榎野川河口干潟(南潟)において、アサリを中心とした底生生物を、波浪や捕食といったリスクから守る手法等について検討する

実施機関名	香川県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>ニッポンバラタナゴ<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>の遺伝子解析 ーニッポンバラタナゴ香川個体の遺伝子モニタリングー</p> <p>ニッポンバラタナゴはコイ科タナゴ亜科に属する日本固有の小型淡水魚で、環境省のレッドデータブックにおいても絶滅危惧IA類(CR)に指定されている。香川県の東讃地域はニッポンバラタナゴの貴重な生息地である。</p> <p>ニッポンバラタナゴの保護には、交雑の恐れのあるタイリクバラタナゴとの正確な判別が不可欠であるが、両亜種は形態に差異が少なく、外見では判別が困難である。そのため、ミトコンドリアDNAのPCR-RFLP分析による遺伝子モニタリングを行っている。</p> <p>[URL]http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/e_center/syoho/sydwvp181029160152.shtml</p>
実施機関名	愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター
調査研究課題名 及び概要	<p>特定希少野生動植物保護管理調査</p> <p>愛媛県の特定希少野生動植物に指定された絶滅危惧種について、その種ごとに保護管理事業計画を策定するため、対象種の生息状況の把握や増殖技術等について調査研究を実施している。</p> <p>平成24～26年度 対象種：ナゴヤダルマガエル 平成26～28年度 対象種：コガタノゲンゴロウ 平成29～30年度 対象種：トキワバイカツツジ</p> <p>[URL]https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity/</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>外来生物の生息実態及び防除実証に関する調査研究</p> <p>県内で目撃情報が多発しているアライグマやセアカゴケグモをはじめ、昨年度話題となったヒアリ・アカカミアリ等の特定外来生物について、県民への注意喚起や防除対策の普及啓発を推進するため、生息状況のモニタリングや生態系への影響を調査している。</p> <p>また、県内で繁殖の恐れがあり問題となっている外来生物（カミツキガメ、アカミミガメ）について、モデル地区を設定して、効果的な防除や絶滅に向けて、捕獲・実証試験を実施している。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>絶滅危惧種オオキトンボの発生消長調査</p> <p>オオキトンボは、環境省レッドリストでは絶滅危惧 I B類に指定されているが、愛媛県では絶滅危惧 II 類となっており、比較的安定して生息が確認されている。しかし、ため池の改修や水管理の変化に伴い生息地は減少の傾向にあり、種の保全のためには基礎的生態や減少要因の解明が必要と考えられる。</p> <p>そこで、オオキトンボの羽化が確認されているため池において、成虫の発生消長とため池の管理方法等を調べ、その関係を明らかにする。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>有機栽培圃場の生物多様性調査</p> <p>有機農業の生産拡大を図るため、有機水稲二毛作体系を中心に、土壌環境調査及び生産現場における生物多様性の地域性や動態について調査している。</p>

実施機関名	福岡県保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>英彦山ブナ林生態系の保全・復元に関する研究</p> <p>英彦山ブナ林は、台風被害等によりブナの衰弱・枯死が進み、さらに近年では、シカの生息密度増加に伴う低木の食害や林床植生の劣化が生じている。そこで、シカ食害を防ぐための防護柵に対する生態系の応答とそのメカニズムを明らかにする。また、この知見を英彦山のブナ林に広域的に展開し、具体的な生態系の保全・復元計画を提案することで、効果的な生物多様性保全策への貢献を目指す。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>森林生態系における生物・環境モニタリング手法の確立</p> <p>日本各地における衰退が懸念される森林生態系の評価と保全対策に資するための生物・環境モニタリング手法を確立し、標準調査マニュアルを作成する。国環研Ⅱ型共同研究として実施する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>侵略的外来種の防除手法に関する研究</p> <p>「福岡県侵略的外来種リスト」に掲載された侵略的外来種のうち、防除手法が開発されている種は少なく、防除対策の推進上の大きな課題になっている。そこで、侵略的外来種のうち、防除手法が開発されていない種を対象に、県内で特徴的な種や広範に分布する種を選定し、外来種対策に資する効果的な防除手法を確立する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>県民参加型の生物多様性調査マニュアルの開発</p> <p>生物多様性指標を活用するためには、非専門家であっても生物種の同定を正確に行い、指標を適切に使用することがきわめて重要である。そこで、本研究では、指標の活用を推進し、生物多様性保全に資するために、種同定のための適切な県民参加型マニュアルを開発する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>植物の環境ストレス影響評価とモニタリングに関する研究</p> <p>これまでに開発したストレス診断法等を用いて、各地におけるオゾン等による植物の影響を評価し、モニタリングを行うと同時に、手法の改良も行う。また、市民の理解を深めるために各地域の特性を考慮しながら研究成果の普及を図る。国環研Ⅱ型共同研究として実施する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>生物応答を用いた水質評価に関する研究</p> <p>環境省において検討されている事業場排水の生物応答を用いた水質評価（通称；WET）について、生物応答試験の実施体制を整えると共に標準物質による感受性試験を実施して試験体制に問題無いことを確認する。その後、事業場排水の水質評価を実施し、毒性が得られた試料について従来の水質項目との比較や関係性を検討し毒性原因となる化学物質群の特徴を明らかにする。</p>

実施機関名	長崎県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>諫早湾干拓調整池及び周辺流入河川における淡水二枚貝類の生息場拡大手法の開発に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ進出工内において2通りの波浪軽減策を用いてイケチョウガイの飼育を行い、最も効果が得られた軽減策を調整池での飼育試験に採用し、効果検証する。 ・周辺の用水路においてマシジミが定着する手法を検討し、二枚貝生息場造成に繋げる。 <p>[URL]http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2018/01/1516775432.pdf</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ツシマヤマネコ保護増殖事業（環境省委託事業）にかかる糞等のDNA分析</p> <p>ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として、生息状況モニタリング（痕跡調査）において採取された糞サンプル等について、DNA分析により種判別、性判別及び個体識別を行う。</p>
実施機関名	熊本県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>熊本県内河川における災害後の水生生物相の把握について</p> <p>平成28年度は、県内35地点のモニタリング調査において水生生物（底生生物）の減少が確認された。</p> <p>平成29年度に主として水生生物が大きく減少していた地点、平成30年度に主としてあまり生物が減少していなかった地点の調査を行い、水生生物の生息状況の変化を確認する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>熊本県内河川における水生生物相の新規解析方法の開発</p> <p>熊本県では平成2年度から県内35地点のモニタリング地点において水生生物（底生生物）の調査を継続的に実施している。</p> <p>そのすべての調査結果を群集類似度を用いて解析し、平面上又は立体上で図示する。</p> <p>また、その図を用いたクラスター解析を行い、水生生物の調査結果を分類する</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ユーグレナ属による河川の着色現象が発生する要因の検討</p> <p>本県の河川において、表層に膜が張り、赤く着色したように見える現象が発生している。</p> <p>その膜を顕微鏡で観察したところ、生物が確認でき、形状等からユーグレナ属（通称：ミドリムシ）と推察された。</p> <p>河川の水質調査の結果等から、当該河川でユーグレナ属が多く発生した要因を考察する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>地下水中の有機ハロゲン化合物分解機構の解明</p> <p>本県北部においてペンタクロロフェノール（PCP）及びその分解生成物（クロロフェノール類、クロロベンゼン類等）が地下水から検出される地点がある。</p> <p>PCP等の分解には微生物が関わっていると示唆される結果が得られているものの、その分解機構等はわかっていない。</p> <p>本研究では、PCPの分解菌の培養や分解に必要な因子の推定等を行う。</p>

実施機関名	宮崎県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>県内河川の底生動物による水質特性についての研究</p> <p>県内河川について、底生動物を用いた生物学的調査と理化学的水質調査を行い、河川ごとの水質を総合的に評価する。調査河川は過去に調査を実施した河川とし、過去の調査結果と比較することで、水質の変動も把握する。</p>
実施機関名	沖縄県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>オルトリン酸等の水産無脊椎動物に対する骨格形成阻害に関する試験</p> <p>水産資源であるシラヒゲウニは、沖縄各所で壊滅的に減少している。理由として何らかの環境要因（水質悪化）が懸念されているが、その実態は不明である。リン酸系農業肥料は、海域への流入後、海底に蓄積し、オルトリン酸として海水中に緩やかに遊離し続けているとされている。またオルトリン酸はサンゴ骨格形成阻害を誘引していることが指摘されており、サンゴ礁漁場における新たな水質監視が求められている。本研究では、シラヒゲウニを用いて、実験室内でオルトリン酸の骨格形成阻害の有無等に関し、沖縄県水産海洋技術センター、沖縄県栽培漁業センターと連携して、実施・検証する。</p>
実施機関名	福岡市保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>博多湾の干潟・浅海域における市民共働の生態系機能の保全・創造に関する調査研究</p> <p>博多湾の良好な環境の保全に重要な役割を果たしている干潟・浅海域を対象に生物の生息状況や水底質状況等の生態系に関する調査や市民共働による環境活動手法の事例の蓄積を行う。具体的には、海とのふれあいの場として身近にある人工海浜においてNPO等と行政が共働して生態系に関する調査を行い、その調査結果をもとに市民参加によるアマモの植付や魚礁の設置等の生きものの生息場を作る取り組みを企画・実施し、それらの効果の検証や調査手法の検討等を行っている。</p> <p>[URL]https://www.jigyohama.com/</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡市内河川の底生動物を用いた環境評価</p> <p>福岡市内河川の水環境について、水質検査だけでは把握できない環境影響や長期的影響を把握することを目的として、河川底生動物を指標とした環境評価を5河川（多々良川、那珂川、御笠川、樋井川、室見川）で順に実施している。平成30年度は多々良川の淡水域について底生動物の調査を実施し、ASPT値、水生生物による水質判定を用いて環境評価を行った。</p> <p>[URL]（福岡市保健環境研究所報） http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/kenkyu/shoholist.html</p>